

令和3年4月30日発行

多摩永山中学校だより

令和3年度 第2号

多摩市立多摩永山中学校 編集・発行 齋藤 裕
<http://schit.net/tama/jhtamanagayama>

5月29日の運動会は、コロナ対策 感染症予防を十分にとった上で行います。今年度の本校の重点目標は【協力してシナジー（エネルギー）を生み出す学校にしよう！】です。それを実現させるべき令和3年度の行事第一弾は5月29日（土）に予定している運動会！です。

みんな

自分の力を出しきって走る 自分の力で投げる タイミングを合わせて跳ぶ



緊急事態宣言が発令され、毎日の生活の中で今まで以上に感染症予防が求められています。そのような中、感染症予防をしながら、みんなでルールを守れば、運動会は楽しくできるんだぞというところを是非お見せしましょう。今こそ、学校の先生、生徒みんなと協力し、お互いに支え合いながら、応援しながら大きなエネルギーを生み出して運動会を成功させてほしいと思います。

みんなで考え、練習を通して・・・

工夫しながら



昨年できなかったことを、今年できるように1つずつ1つずつ成功させていきましょう！

3 回目の緊急事態宣言を踏まえて 1 年移動教室は延期します。

副校長 藤塚 正

昨年度は、新型コロナウイルスの為、1 年移動教室・3 年修学旅行の大きな学年行事は中止になりました。生徒にとってどんなに残念なことだったかと思うと心がとても痛みます。今年度は、感染予防対策を十分に考えて何とか実施したいと考えています。

多摩永山中学校の宿泊行事は、農業体験と京都・奈良の歴史的文化に触れる体験を伝統としています。多摩市の中学校修学旅行は、ある時期、京都・奈良を中心にした修学旅行から福島、宮城、岩手、秋田、青森等東北地方の農業体験をメインにした修学旅行に切り換えた学校が数校ありました。東北の修学旅行では、田沢湖周辺の農業、林業、酪農等の農業体験やわらび座体験、岩手県での農業体験や奥州平泉の文化遺産や溪流下り、小岩井農場でのバター作り、青森の十和田湖の遊覧や寝台列車利用での帰京など京都・奈良では経験できない貴重な体験をすることができました。しかし現在では、京都・奈良の修学旅行を実施している中学校が多数を占めています。私が中学生の頃、修学旅行は、京都・奈良へ行くものと思っていました。京都・奈良は、日本の心に触れるためには、とても大切な場所ですが、農家出身の私にとって、農業体験中心の修学旅行は、とても貴重な体験になることは間違いないと思っていました。私は、農業は好きだけでも、農業だけでは食べていけない現実もあり、農業を定職にすることは諦めました。しかし、高校時代まで経験した農業の厳しさ、収穫の嬉しさは、忘れることのできない貴重な体験でした。作物は、本当の美味しさを伝え、季節感を味合わせてくれます。しかし、時として自然の脅威には全く無力です。くじけてしまいそうになることも多々ありました。

多摩永山中学校では、卒業する 3 年間の中で、八ヶ岳での農業体験と京都・奈良の歴史文化の両方を学べるのが、生徒にとって非常に大きな財産になると考えています。だからこそ、コロナ禍で制限、規制が多い中ではありますが、昨年度までとは違った形でもよいから、今後も実施したいと準備を進めていきます。

多摩永山中ミニ農園・ビオトープ、活動継続しています。

コロナ禍の中、相澤農園の方々と共に指導して下さる相澤さん、地域の有識者である石川さん、西さん、佐藤さん、森脇さん、大久保さんを中心に 2 月に植え付けた 4 種類のジャガイモが順調に育っています。また、4 月 16 日には、京芋、石川芋の植え付けを家庭科部の生徒も参加して行いました。ビオトープでは、メダカ 100 匹増やしました。ビオトープ作成時には、本来のメダカを飼育していたのですが、現在は、複数産地のメダカが混在しています。



PTA 総会議案書配布しました。

昨年度末から、PTA 副会長の滝瀬さんを中心に本部役員の皆様方が、新組織発足の準備を進めてまいりました。アンケートに協力して下さった皆様や立候補していただいた方々には本当に感謝申し上げます。4 月 24 日には、新旧役員引継ぎ会を行うことができました。

コロナ禍で思うように PTA の活動も引継ぎも難しい状況の中で、今までの PTA 会長経験者の方々のお力添えには、涙が出ました。本当にありがとうございます。多摩永山中学校の生徒のため、ボランティアとしてご協力いただきました中村元会長には、本当に感謝しています。

中村元会長には、何度も学校にお越しいただき、新組織発足にむけ、ご指導いただきました。中村さんは、医療の仕事に携わっています。医療現場の最前線に携っているのにも関わらず、ワクチンの接種は、まだ回ってきていません。多摩永山中に来校時には、事前に毎回自費で検査を受けて、安全を確認した上でご来校していただいていた。マスクを外してホッとする瞬間は、寝る前のほんの一瞬です。このひと時が本当にほっとする瞬間だそうです。家庭内でもテントを張り、寝る前までマスクは絶対外しません。自分のテントの中に入った瞬間だけマスクを外すそうです。多くの方々に、医療関係の従事者のご苦勞を分かち合ってほしいと共に、安易な行動は差し控えてほしいと強く感じました。我々、一人ひとりがコロナ感染予防に本気で対応していかなければいけないことを、一人でも多くの人に知っていただき、感染予防に努めていかなければならないと思います。